

市民ごみ大学セミナー 2003

第2回

高額なハイテク設備や
膨大な税金を使わず ごみを半減！

カナダ・ハリファックス市の “画期的な ごみゼロ政策”



「ごみ半減」「ごみゼロ」…日本でもよく耳にするスローガンですが、初めの意気込みはどこへやら、という市町村も多いのではないのでしょうか。

今回のごみ大学は、かけ声だけでなく、実際に5年間でごみを半減させ、さらに、ごみ・環境だけに止まらず、雇用も生み出しているという、画期的なハリファックス市のごみゼロ政策について、現地調査をされた津川敬さんにお話を伺います。

ハリファックス市はカナダの最東端、北大西洋に面するノバスコシア州にあり、州の人口は94万人。ハリファックス市はノバスコシア州最大の町で、人口は36万人です。

ノバスコシア州では、1990年代はじめ、ごみの最終処分場の立地などをめぐって行政と住民の激しい対立が起きましたが、5年の歳月をかけて最終処分場の立地選定を市民参加で行なう中で、95年に独自の廃棄物資源管理（ごみゼロ提案）を生み出しました。

脱焼却を実現し、脱埋め立てに向かっているというハリファックス市の資源管理のポイントは…

- (1) 生ゴミの堆肥化
 - (2) 容器のデポジット制
 - (3) 紙、プラスチック、タイヤなどの再資源化
- …にあるようです。

市民・行政・企業が一体となって実現した「ごみ半減」の実例に、私たちも大いに学びましょう。

参加費：700円（ごみ・環境ビジョン21会員は500円）
＜資料代を含む＞

12月6日(土)
1時半～4時半

国分寺労政会館（旧：国分寺勤労福祉会館）
JR国分寺駅南口徒歩5分 TEL 042-323-8511

講師 ■津川 敬さん
（環境問題フリーライター）



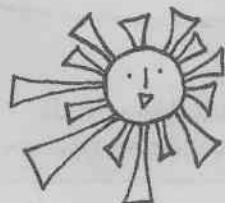
■津川 敬さん

環境問題フリーライター 東京・浅草生まれ
著書…『ドキュメントゴミ工場』『検証・ガス化溶融炉—ダイオキシン対策の切り札か』
『教えてガス化溶融炉—これでごみ問題は解決か？』他 廃棄物関連誌に多数執筆
「廃棄物処分場問題全国ネットワーク」運営委員
「止めよう！ダイオキシン汚染・関東ネットワーク」運営委員。



NPO法人

ごみ・環境ビジョン21



〒185-0021 東京都国分寺市南町
2-17-5 富沢ビル3-G

TEL&FAX 042-328-6621

月・水・金（除く祝日）12～16時

gomikan@mtf.biglobe.ne.jp

http://www2u.biglobe.ne.jp/~GOMIKAN/